

指定管理者評価シート

一 管理運営の状況

1 施設名	仙台市旭ヶ丘児童館		
2 指定管理者	特定非営利活動法人仙台YMCAファミリーセンター		
3 指定期間	平成29年4月1日～令和4年3月31日		
4 施設の利用状況	《利用者数》	<ul style="list-style-type: none"> ・ 令和3年度 20,666人（前年度比 118.9%） ・ 令和2年度 17,381人 ・ 令和元年度 20,953人 	
	《事業》	<ul style="list-style-type: none"> ・ 児童に健全な遊びを与え、その健康を増進し、情操を豊かにすることを目的とした児童厚生施設としての事業 	
5 収支の状況	《費用》	()は前年度決算額	
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 指定管理者に支払った費用 39,862千円 (37,238千円) ・ その他市が負担した費用 0千円 (0千円) 		
6 利用者の声	《収入》		
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 使用料収入 0千円 (0千円) ・ その他収入 0千円 (0千円) 		
6 利用者の声	《実施状況》	<ul style="list-style-type: none"> ・ 利用者アンケート、児童館運営懇談会、児童クラブ保護者会を実施。 	

二 管理運営に係る評価（モニタリングシートの結果によって評価）

評価分野	所見	評価
I 総則	「児童館ガイドライン」等に基づき、設置目的を踏まえた施設運営上の基本方針を定め、職員への共通理解を図るとともに、館内掲示等で利用者にも周知している。職員の倫理保持・服務規律遵守については、研修や会議で確認する取り組みを行っている。また、地域の特性やニーズを踏まえながら各事業に取り組み、施設目的の達成に努めている。	33/33
II 施設の運営管理体制	職員の配置や業務内容の共有、開館の実績、経理書類の作成、個人情報の保護等について適切な管理体制が構築されている。また、各種マニュアルの整備、施設内外の点検、毎月の避難訓練等の実施により、利用者の安全に留意した運営に取り組んでいる。	30/30
III 施設・設備の維持管理	日常的・定期的な点検や清掃により、建物・設備・外構等が適切に維持管理されている。備品や鍵の管理も適切に行われているほか、施設内外の巡回や仙台市環境行動計画に則った取り組みも実施されており、安全で快適な環境が保たれている。	23/23
IV サービスの質の向上	名札の着用、児童館だよりの発行、ホームページの更新による利用情報の提供等、利用者が利用しやすい環境づくりに努めている。また、各種研修会への参加を通して職員の専門性を高めているほか、意見箱の設置、アンケートの実施等で利用者のニーズを把握し、施設運営に生かすなど、サービスの質の向上に努めている。	28/28
V 施設固有の基準	児童クラブにおいては、子ども達が安心して過ごせる生活の場としてふさわしい環境の整備と安全面の配慮が行われており、家庭や学校と情報共有を図り連携した育成支援に努めている。また、乳幼児向けの交流の場を工夫するなど、子育て家庭を支援するとともに、子育て支援クラブをはじめとする地域組織・団体・住民・関係機関との連携、相互交流を図りながら児童館の運営に取り組んでいる。	18/18

三 評価総括

《指定管理者（特定非営利法人仙台YMCAファミリーセンター）による自己評価》
<p>令和3年度は、昨年度同様コロナ禍による影響を受けたが、地域により必要とされる児童館を目指し、地域諸団体等との繋がりを大切に事業の充実に努めた。</p> <p>〈児童健全育成事業〉 コロナ禍により休止期間があったが、11月13日（土）には、昨年度は開催できなかった児童館まつりを午前・午後の2回に分けて開催した。多くの自由来館利用者にも参加してもらうことができた。</p> <p>〈子育て家庭支援事業〉 年齢別や異年齢の通常行事に加え、親子で楽しむベビーマッサージや親子ヨガ、保護者を対象とした食育セミナーやわいわいミニバザーなどを実施し、充実したプログラム運営を目指した。</p> <p>〈地域交流推進事業〉 毎年地域の方をお招きして行っていた『囲碁将棋カーニバル』は、令和3年度も地域の方を招待することは控え、職員と児童クラブ登録児童で実施となったが、行事の様子を掲示板などで地域の方々に知ってもらえるようにした。お知らせした。また、同じく毎年地域の方と協力して行っていた『世代間交流ハロウィン』も今年度の実施は見送ったが、児童クラブ登録児童が作成したハロウィンカードを地域の方へ職員が届ける活動を行い、これまでとは違う形での地域の方々とのつながりを持った。</p> <p>〈放課後児童健全育成事業（児童クラブ）〉 登録児童の増加により、一時は待機児童が発生した期間もあったが、児童がより安全にかつ快適に過ごせるように職員会議等で何度も協議を重ねながら運営を行った。令和2年度から始まったこどもたちの発表の場である『あさひがおかチャンネル』は、こどもたちの間にも定着し始め、ダンスやコマ回し、コントなどに参加するこどもたちが増えてきており、児童の主体的な活動の場となっている。</p>

《施設設置者（仙台市）による評価》	総合評価
<p>令和3年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止に係るまん延防止重点措置や宮城県・仙台市緊急事態宣言、宮城県緊急特別措置などの発令があったが、児童クラブに関しては、年間を通して受け入れを行った。この間、小学生や乳幼児親子の自由来館などは一部休止していたが、解除後も小学生の自由来館は土曜日のみ、乳幼児親子は平日午前のみと制限のある再開となった。年間を通して、感染症対策のための参加人数の制限や環境の工夫を行うなど様々な配慮と努力をしながらの児童館運営だった。</p> <p>児童健全育成事業においては、小学生を対象に時間帯や学年で分けて「児童館まつり」を開催した。ペーパーヨーヨー作りや射的など様々なブースを設け多くの参加者で賑わった。</p> <p>子育て家庭支援事業においては、自由来館促進をねらいとして「ちびっこファミリーデー」を土曜日開催した。大型遊具などを設置して親子で運動遊びを楽しめるプログラムを提供するなど事業内容の工夫で父親の来館につながった。また「親子の食事セミナー」は、地域の管理栄養士を招き、食に関する様々な悩みに答えたり、レシピ紹介など人気のプログラムとなっている。地域のニーズに応え、様々な趣向を凝らした事業を通して地域の子育て家庭を支援している。</p> <p>地域交流推進事業においては、コロナ禍で交流の機会は減ったものの児童館だよりの回覧や地域掲示板の活用など地域の方とのつながりを保つよう努めた。「囲碁・将棋カーニバル」が今年度も地域の方の参加が見送られ、児童のみで開催となったが、行事の様子を児童館だよりの回覧で伝えた。また、ハロウィンカードを手作りして地域の方々に職員が届けるなど新しい形の多世代間交流を図った。</p> <p>放課後児童健全育成事業においては、日々の遊びや活動の発表の場となる「あさひがおかチャンネル」に向けて友だちと協力しながら目的を持って主体的な遊びや生活ができるよう支援が行われていた。</p>	S

四 その他特記事項（上記評価項目の他に、指定管理者の優れた取組み等、特に記載すべき事項があれば記載する）

特記事項

◎ 評価担当課（施設所管課）：子供未来局子供育成部児童クラブ事業推進課